



誰もが幸せな一日でした

## 特集

卒業式～入学式

インタビューシリーズ 初代医療福祉学部長 紀伊國献三 名誉教授

スカパーフェクトTV!で授業始まる

コラム ～ 苦難を乗り越えて ～



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成13年 4月25日

編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116

ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>



# 平成二十一年度卒業式

平成二十一年三月十六日、本学の平成二十一年度卒業式並びに大学院学位記授与式が本学体育館にて挙行されました。学部卒業生七十七名、大学院修了生三十四名がそれぞれ旅立の未来に向い、思い出多い学び舎を後にし旅立ちました。

式は、卒業生総代の高田孝宣さん、経営者が卒業証書を、続いて修了生総代の緒方輝さんが学位記を、それぞれ大谷学長から授与され



卒業式終了後に記念撮影

ました。そして、高杉和子さん(看護)、下井俊典さん(理学)、田中美涼さん(作業)、小山裕見子さん(言語)、菅沼政紀さん(放射)、高田孝宣さん、堀米由美子さん(福祉)の各学科の成績優秀者七名に学長賞が贈呈されました。

大谷学長、初山院長、高木理事長が、卒業生及び修了生にはなむけの式辞が述べられ、続いて来賓から卒業生及び修了生を励ます祝辞が述べられました。このあと、卒業生代表の高田孝宣さんが謝辞で「四年間の大学生活で得た『今頑張らなければいつ頑張るのか』を胸に秘め、どんなに苦しい経験も、決して無駄なことではなく、その一瞬一瞬に情熱を傾け、人生を豊かにして行こう」とこれからのスタートに対する決意を述べました。さら

に、修了生を代表して監原由紀さんが「医療に携わる者として、常に謙虚な気持ちを忘れずに学び続けることを、修了生を代表してここに誓います。そして、いつの日か、私たちが学び経験したことを後輩に伝えることができれば、それがお世話になった先生方に、私たちができる唯一の恩返しであると思っております」と謝辞を述べました。最後に卒業生代表の田中美涼さん、修了生代表の吐師秀典さんが、学長に記念品贈呈を行い、式が終了しました。

式が終了し、卒業生や修了生はお互いに別れを惜しみながらも、各々の新しい将来への誓いを新たにしました。

## 両親の声

### 卒業式当日

孫は医療経営管理学科に就いておりました。医療方面で学んだことを發揮してもらいたい。卒業おめでとう。

無事四年間を終えてほっとしております。真面目に、これから仕事を頑張ってほしいです。

言語聴覚士として、皆さんの役に立つてもらえればと思っております。

大田原というこんな良い環境で学ばせて頂き感謝しております。将来は、皆の役に立つ人になってもらいたいです。

四年間よくがんばってここまで来ました。人の気持ちがよく解るような、人間的にも成長してほしいと願っています。

四年間よくがんばってやってこられたなと思います。今までの成果を十分發揮して、またこれから一生懸命勉強してほしいです。

とにかく卒業してくれてうれしです。これからは、自分に責任を持って、心を広く持って、伸びていってほしいと思います。

四年間長いかなと思っていたら、意外と早かったです。今まで学んだことを盛大に活かせるように、ただ祈るだけです。

一つの責任が終わったという感じです。勉強した結果を少しでも社会に役立ててくれたらと願っています。

ようやく卒業できてうれしく思っております。これからが心配ですが、人として基本的なことを忘れず、仕事先でもがんばってほしいです。

大変うれしく、そして安心しました。これから自分で責任を持って歩いていってもらいたいものです。

四年間無事に卒業してくれてうれしいです。足手まといにならないように、怪我や病気もしないように一生懸命頑張ってほしいです。

四年間があつという間に経ってしま、四年前と全く同じような気分です。学校で学んだことを十分に活かしました。これからも学んでほしいです。

四年間長いと思っておりました。が、あつという間でした。大学で学んだことを一杯發揮して、人の為になる人になってもらいたいです。

やっと卒業してくれて、ほっとしています。本人がこれからはがんばって生きてくれたらうれしいです。

おかげ様でうれしいです。本人も希望の勉強ができたみたいで喜んでます。志があつてこの大学に来たのだから、病院へ行つてもその志を忘れないで人の為、患者さんの為がんばってほしいです。

ほんと致しました。元気で病気をしないで、この仕事を続けられたらと思います。

なんとか卒業させて頂いてほつとしてるところです。自分の学んだことを活かせる職場に就職できたので、本人も非常に喜んでおります。ありがとうございます。

やっと卒業でき、ほつとしています。人の気持ちのよく解るPPTになってほしいと思っております。

## 両親と新入生の声

### 入学式当日

四年間が終わってほつとしていますが、また上に行くようなので、親としてはまだまだ大変です。本人も、もっと勉強して皆の為になるように努力してほしいです。

孫の付き添いで来ました。大変嬉しいですね。本人がしたいと思つた事をやらせてあげたいです。

看護婦になりたいと申しまして、患者さんにとっても優しく、そしてみんなに親切にできる、そんな風になって欲しいです。

ほつとして、そして嬉しく思っております。人の役に立つような人間になってもらいたいと常々思つていました。その為には心に優しさを、人間になって欲しいです。

晴れがましい気持ちです。真つ直ぐな、そして正直な思いやりのある人になって欲しいです。

看護学科です。人に尽くすような仕事について欲しいですね。

子供が目標を持ってこの大学を選んだので、頑張ってもらいたいです。親元を離れるので少々心配なのですが、人生の中で勉強としては最後のなので、四年間という短い時間ですが、思い出に残るような充実した若々しい学校生活を送ってもらえればと思っております。

無事四年間で終わられて幸せです。患者を思いやるPPTになってもらいたいです。

四年間、無事卒業できて喜んでいますが、晴れ姿を見るのが、感無量です。皆に喜ばれるような、少しでも力になれるようなPPTになってほしいです。

四年間、ストレートで卒業できてとてもうれしいです。思いやりのあるやさしいPPTになってもらいたいです。



# 平成十三年度入学式

平成十三年四月六日、春の暖かい日差しの中、平成十三年度学部入学式並びに大学院入学式が、新入生と保護者、来賓が多数出席し執り行われました。

式では、学部入学生八二二人と大学院生七人の入学が大谷学長から許可され、大谷学長と初山院長、高木理事長が式辞を述べ、新入生に対しこれからの四年間の大学生活を激励しました。続いて、来賓の方々がお祝いの言葉を贈りました。このあと、学部の新入生を代表して、湯澤将貴さん(福祉)が「自分の夢に向かって、国際医療福祉大学生としての四年間を、たゆまぬ努力で学業に専念することを誓います」と誓いの言葉を述べました。さらに、大学院新入生を代表して吉中里香さんが「最近の医療福祉の多くの専門分野の活躍が期待される中、その期待を裏切らないよう、国際医療福祉大学院におきまして、専門性を深め、医療福祉の向上に貢献することを誓います」と誓いの言葉を述べました。入学式を終え、新入生はこれから大学生活に胸を膨らませ、保健医療の道に第一歩を踏み入れました。



入学式にて式辞を述べられる学長

## 第七回入学式学長式辞

大谷 藤郎

ご入学の皆さんおめでとうございます。これまで長年にわたる皆さんのご勉強のご努力に敬意を表します。ご父兄の皆さんにも心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、今日この日から、この国際医療福祉大学の学生となられました。私は入学式にあたりまして、ご入学の皆さんに、毎年度のことと申しております。大学は皆さんを一人前の社会人として、一人前の紳士淑女として尊敬して、処遇するということであります。そのことは皆さんお一人お一人が自らの判断と責任を持って行動されるべきということであり、つまり自らの判断と責任において、

第一にはその専門とされる医療福祉のご勉強に専心努力して下さること。第二にはそれは申しますものの、大学にはこの美しい自然と名所に恵まれた那須野ヶ原の地にあります。若者として、良き師良き友を得られて、将来に悔いのない青春を存分にエンジョイして下さい。第三には皆さんがお選びになったこの国際医療福祉大学のアイデンティティーと共に生きる社会を築くという大学の建学の精神をよくお考えいただき理解を深めて下さること。主として、これに申しております。

さてこの機会を申し上げます。皆さんにお話しておきたいことがございます。まだ一月も経っておりませんが、この三月に皆さんの先輩方の卒業式が同じようにこの体育館でございました。その時私は、卒業生の皆さんへの餞の言葉として、皆さんはこれから社会へ出られますが、自分の人生において、自分自身が、一番貴いと考えておられるものについて、それに向かって、真実に生きて下さい。ということをお話しました。

それを聞いていた人から、自分が一番貴いと思うものとは、何を言っているのですか?と何を考えておられるのですか?との質問を受けました。もちろん私には私が貴いと考えているものがあります。その時お話ししました。滝口春男さんと作品」という本に關わる三人の方の生き様もその一つかと思えます。しかし個人の特定の考えはたまたま私が理想としていたとだけであって、人はそれぞれに、社会の中の他の人間の生き方を観、歴史の中の故人を観ながら、究極的には自分自身の良心に照らして、自分が自分の人生において何を貴いとするかについて考えるべきが本当であると思えます。

私が一つだけ申し上げたいというのはこのことでありまして、皆さんは卒業されるまでに自分の人生において何を最も貴いとするか、つまりどのような理想をもつて生きるかを考えて頂きたいというところであります。亡くなりましただけ、井上靖という作家がおります。私より七歳ばかり年長で、戦前戦後の私と同じ頃を京都で過ごされ、またその令夫人は京都大学医学部解剖学教授であり、考古学、人類学などの文化人として有名であつた足立文太郎先生の娘さんでありまして、そのような私の知っている馴染み深い環境からか、私はこの作家の書かれた小説の中の風物や人間について、いつもよい共感を覚えております。

その一つに、『天平の甕』という小説があります。この小説は、一三〇〇年も前に中国の高僧鑑真和尚が、中国に渡って勉強して来た日本にの僧の招きに応じて暴風雨による二度の失敗に耐えずに日本への渡来に成功し、朝廷の厚い尊敬を受けて奈良に唐招提寺を建立して、正しい戒律の仏教の興隆をはかられた物語とされております。

その当時の日本では、唐の国といつても知つてゐる人は殆どなく、知つてゐる人もその国へ行くこととすれば、荒れ狂う大海に舟と共に沈没して非業の死を遂げたり、やつと異国の大唐国に渡り得ても、運良く迎える舟がやつてきて再び故国日本に戻れるかどうか全く分りません。その危険と恐怖を越えて、青年僧達が遣唐使に便乗して海を渡つて来たのです。彼らは何を考えていたのでしょうか。

おそらくそれは日本においては想像する事さえできない。未知の大唐国の仏教や制度や輝かしい文物が、未知の真理を求めて、その古代の日本に持ち帰り伝えることが日本の社会の為になるのだ。それが自分にとつて、最も貴い仕事であると考えたのでしよう。だからあえて彼らも、人間の極限にチャレンジしたのである。それも、それに向かつて行ったのです。もちろんその多くの人々が不可抗力の逆境に直面し、歴史の闇の中に消えていってしまったのですが、その中で、ただ一人の僧鑑真だけが在唐二十年にして、ようやく高僧鑑真を伴つて故国日本の土を踏むことができたのです。このことを、その一人一人を淡々としかし深い尊敬と愛情の念を込めて物語は書き綴られております。

井上靖が私たちに伝えようとしたのは、一人の僧鑑真と高僧鑑真の成功物語だけでなく、他の人のこと、木の葉のように運命に翻弄されながらも自分が貴いと思う仕事、真理を求め挑戦しようとして挫折した若者が多数いること、そしてそれが、人間といつてもその理想の一つの姿であることを示したかったのだと思ひます。



県外なので親元から離れて少し心配です。自分なりに目的を持って楽しく、そしてしっかりと生活して欲しいと願っています。

これから四年間がんばります。充実した学校生活、そして指導的立場に立てるようにがんばって勉強したいと思います。

ありがとうございます。患者さんにも優しく接して親しまれる看護婦になりたいです。四年間がんばって、国家資格をとって早く就職したいです。

私が生涯の仕事として、社会保障政策からハンセン病、精神障害者の解放政策に進みまされたのは、それだけの理由ではありませんが、そのような経緯も私の目をよくよく覚ませた一つであります。今日日本の政治・経済は混沌と不安におおわれています。にもかかわらず皆さんは、若さと健康と自らの意志をもって、そのうえにこの両親様やご父兄の皆さんのご理解のお陰で、四年間というもの、この大学で学ばれるので

その与えられた幸運をよく認識され感謝されて、勉強に専念して下さい。しかしその勉強だけでなく、卒業されるまでに、あなたが自分自身の人生において最も貴いと思うものは何か、友人と語り合い、先生と語り合い、書物を読んで、自らお考えになり、将来に向かってチャレンジして下さい。将来に希望をもちます。『天平の甕』の物語に借りて希望いたします。本日は皆さんのご入学を心からお祝い申し上げますと共に、ご来賓はじめこの入学式にご参加頂きました皆さん、また諸準備にあたりました教職員の方々に心から感謝を申し上げます。私の式辞と致します。



# 紀伊國先生 インタビュー

医療福祉学部の完成年度を終え、本学が新たな一歩を踏み出す平成十三年度の初頭にあたり、初代医療福祉学部長・医療経営管理学科長を務められた紀伊國献三先生に、学部・学科確立の四年間を振り返りながら次世代の学部・学科へのメッセージを語っていただきました。（聞き手 田澤薫・広報副委員長）



紀伊國献三 先生

平成十三年三月二十一日収録

……：学年度末また離任直前のお忙しいなか、お時間をお取りいただきまして誠にありがとうございます。早速でございますが、初めての卒業生を出された現時点で、医療経営管理学科、医療福祉学科それぞれに対する先生の御評価はいかがでしょう。

紀伊國：医療福祉学部は医療経営管理学科と医療福祉学科の二学科があるわけです。私が専門にしてきた医療経営管理学科は日本で始めての学科で、社会にお役に立つことができるかどうか努力もあつたのですが、教員の方々の協力もあつて就職率が九十七%とそれなりに受け入れられたと大変幸せであります。一方の医療福祉学科の方は鈴木五郎学科長にお任せしておりました。多くの福祉の四年制大学があるなかで、何か特徴を持った学科にしたいと思っておりました。もちろん二つの学科ともこれから更に向上していかなければならな

い点は沢山あるとは思いますが、それなりの目標は達成したのではないかと思います。

……：いま先生は教員の努力ということをおっしゃられたが、紀伊國先生御自身はやはり学部長・学科長として格別、心を砕かれたり工夫されたことがありだと思えます。

紀伊國：医療経営管理学科につきましては、日本ではじめての学科ですから他に参考とするものがない。われわれが作っていかねばならないわけで苦労しました。

私は、対話が教育の基本だと思っております。本学はクラスサイズが大きすぎる面があるので、医療福祉学部両学科ではゼミナール制をとっています。たとえば医療経営管理学科では、三、四年生は同一の先生のもと、文献と一緒に読んだり研究課題をどのように進めていったらよいかを模索しながら卒業論文作成につなげています。かなり刺激になったのではないかと思います。私は、現場主義でして、三年次に病院に四週間実習に行く時に現場で改善が必要な点を見つけて、それを卒論のテーマにするよう指導しています。医療経営管理の点から、どういった改善策がありうるのかを考察させるのです。

医療経営管理学科では、先生方と相談しまして、あの病院で実習をしたということが将来のキャリアにプラスになるような日本の代表的な病院での実習をお願いすることにしました。幸い、日本病院会会長の故諸橋芳夫先生の御協力で、日本病院会会員のすべての病院で実習ができるように諸橋先生御自身が電話して下さったりするなど、実りある病院での実習ができました。このことは、現在日本の病院が経営的な問題意識に真剣味があることも背景にあると思えます。実習では必ず夜勤を

やらせてくださいとお願いました。病院とは二十四時間オープンしているところですから、また、病院によっては手術を見学させて下さったところもあります。学生達の間からは、きつかったけれど良かったという声が多くあります。

……：はじめてなのでいろいろ手直しが必要になってくるのは事実ですが、幸い私の後任には元東京大学教授で、医療情報の権威である開原成允先生が就任されました。開原先生も学科のカリキュラムについては、何か特徴をもつたものをもつと出すべきだというお考えで、既にこの件につきましては改革が始まっています。

医療福祉学科は、名称についても大谷学長と相談して医療福祉学科という名称をつけたわけです。医療という名前が頭についているのは何故かと申しますと、一般的には、医療の知識を十分に備えた福祉の専門家」となるでしょう。それがいまのカリキュラムでどれくらい果たされているか、私としては、医療の世界でも十分に発言できる方になってほしいという希望をもっているわけです。自分達の領域の中で、社会が必要としていることは何か、福祉の先



生方も積極的に発掘する努力が必要とは思いますが。

……：ひたすらに専門の学習を積むだけでなく、もっている専門性と社会で求められている専門性の市場調査のようなことも必要だということでしょうか。

紀伊國：そうですね。例えば病院の診療の記録からはさまざまな経営資料をよみとることが出来ます。経営というとお金の話と思う向きもありますが、それだけではなく、それぞれの組織体は何を作り出しているのかということ。病院は良い医療を生み出したかどうか、問われるわけです。医療ソーシャルワーカーの配置についても、直接的には経営の利益にならなくてもソーシャルワーカーを置くことがこの病院にとつてはプラスと考える事務長であり院長を育てたいし、逆にいえばそう評価されるソーシャルワーカーを養成することが福祉の側にも求められるわけです。

……：そういうことで、医療福祉の総合大学である本学としては、コメディカルがそれぞれの存在価値を理解し合うためにも、学問や教育上、今後益々活発に交流していく必要性がございますね。

紀伊國：私は、医療福祉の総合大学として本学が今後取り組む重要なことだと思えます。また各領域の範囲でも、例えば医療福祉学科も医療経営管理学科も、医療機関・福祉機関にはどういった人材が求められるのか、組織的な面からも検討する必要があります。

また互いの領域の重なり合う部分だけでなく、情報処理の技術について知らないのはおかしいし、診断治療、ケース管理、医療や福祉の領域で市場経済の持つ意味、お金の計算・バランスシートの読み方等は、基本的にすべての医療従事者が知っておくべきことです。家庭生活だつてある種の経営です。こうした基本的な要素と照らし合わせて医療や福祉は何のためにあるのかを考へる。特に私たちの仕事は対象が人間ですから、人文科学・社会科学のバラン

入を取って勉強することも必要でしょう。人間が過去におこなってきたこと、文学でも絵画でも音楽でも、を理解すること、興味を持つことが必要かなと思っています。

紀伊國：医療福祉学部の卒業生は、それぞれの領域の先駆者として社会で道を切り開いていくわけですが、病院管理のバイオニアであられる先生が、管理もモス界に入られた経緯はどのようなことでしょうか。新しい領域である医療経営管理・医療福祉学に飛び込んできた学生への励ましとして、お若い頃のことからお聞かせいただけると幸いです。

紀伊國：振り返ってみますと、私は始めてのところが多そうですね。私の出身大学のICU（国際基督教大学）も一期生で、本当に先輩がいなくて驚きました。どいう道にいくのがよいのかと、ICUで非常勤の保健体育の教授をなさっていた日野原重明先生に「あまり普通の道ではないのは何かないでしょうか」と相談にいったところ、「病院管理をやったら」といわれ、アメリカの大きな本を貸していただきました。



田澤 薫 先生

じゃ、やってみましょう」となった訳です。アメリカで勉強しなければならぬといっても、昭和三十三年の卒業の頃にアメリカに行くのは夢のまた夢でしたが、先生に勧められてある（「フルブライト」）試験を受けて通り、シカゴのノースウエスタン大学で二年間勉強しました。そのころ日本では病院の大ストライキ問題がありましたね。初代の女性大臣、中山マサさんが国会で病院管理研究所をつくるといわれたところが研究者が誰もいなかったので、私が誘われて帰国した、というわけで。

まあ心の片隅に何か新しいことをやりたいという気持ちがあったのでしようね。それがこの不思議な世界に入ってきたきっかけですね。

紀伊國：先生はイタリア絵画の巨匠カラヴァッジョ（一五七一―一六一〇）の大ファンであるそうですが、先生のお話しを伺ううちに、規定概念を打ち破り新しい技法を提示して後の世に強い影響力を残したカラヴァッジョと重なる部分が多いように思われるのですが、カラヴァッジョは今年の九月に日本で展覧会が開かれますね。十七世紀で絵画の歴史をかえたといわれている画家です。私は学生時代に大学の絵の先生から、たまたま絵を観る楽しみを教わりました。ある時、ローマの教会でカラヴァッジョの「聖マタイの召命」という絵を観て惹かれ、今では彼の全部の絵を観たいと思っています。面白いですよ。カラヴァッジョの新しさは、現実をきちんと描かなければならないと言ったんですね。新しいことをするのは、現実を見据える必要があります。でも私はカラヴァッジョの生き方というよりも、作品に心が打たれました。本学でも芸術のことをもちよつとやっても良いのではないかと思いますね。

是非、学生さんにも九月に東京でやるカラヴァッジョ展（東京都庭園美術館、九月二十九日（土）―十二月十六日（日））を観てほしいと思います。

紀伊國：ICU一期生であられる先生から、一期生とは何なるものか、どうあるべきか、先生のお考えをお聞かせください。

紀伊國：一期生には、伝統を作っていくという楽しみもあり、これから道をつくる大変さもあります。私の同級生は、宮尾洋子先生（本学、語学教育センター長）もそうですが、特定の場ではなく、さまざまなか所で働いていますね。そういう点からいって、この大学の卒業生もできるだけの幅広い世界で働いて欲しいと個人的には思っています。医療経営管理学科の卒業生にしても医療の事務とかわれがちですが、場合によっては看護部長になっても良いとも

思います。医療福祉学科も福祉という固定観念にとらわれず、福祉は人々の幸福を追求することですから広く捉えていただきたいと思いますね。

あと好奇心ですね。新しいことをやるんだということを、私は日野原先生から教わったようにも思います。普通では気が付かない点がありますから、その中から新しいものを見つける努力をしていただきたいと思います。ALSの患者さんやハンセン病の患者さんの問題をわれわれの多くが遠ざけてきたように、同じような例はまだまだあるはずですよ。それを見つめる努力をしていただきたいと思います。それができるのは若さの特権ですよ。

知的好奇心を学生に与え、新しい未知の世界もあることを学生に知らせることは教師の義務ではないかと私は思いますが、学生も新しさを受け入れる学生であって欲しいし、いつも質問する学生であって欲しいと思います。「質問はありませんとか」「わかりませんとか」と言わずに正面から受け止めて欲しい。せつかくのチャンスを逃したりしないであって欲しい。

私も学生時代は授業でよく寝ていました。ですから私は寝ることには寛容なんです。ただし私語は困ります。寝るのは他人の邪魔をしていないし、私の話が退屈だったかなあとの自己反省もありません。

紀伊國：今後の医療福祉学部または医療経営管理学科の学生は、どのような学生であってほしい、どのような人材として育ててほしい、とお考えですか。

紀伊國：よくギブ・アンド・テイクの関係をいいますが、あくまで最初にくるものはギブなのであって、こういうことをあなたに提供できますよと自信を持っていえる学生であって欲しいですね。福祉と医療の関係についても、発展させるにはどういった組織が必要なのかについて発言できる人であって欲しい。措置の世界から選択の世界へ転換する福祉では、なおさら社会の動きにもっとと敏感であって欲しいし、介護保険制度も福祉がどう活用すべきか追求して欲しいと思いますね。

面白いと思う事には好奇心をもつて、いも曇りに知識を手繰っていく必要はありませんね。例えば間もなく公開予定の「ハンニバル」も、舞台はフイレンツエですが、映画にでてくる絵はどの教会にある絵なのかと調べれば、美術の教科書に載っていたりするわけですよ。そういう横道にそれを探る楽しみもあると思います。

できたら自分が関心を持ったことは、石の上にも三年という言葉もありますから、三年以上は追い求め継続する力は持ちつづけて欲しいと思います。情報時代に新しいものをみつけるために、情報収集と本物を見分ける力が重要です。場数を踏むことが必要でしょうから、情報には飢えていて欲しいと思います。自分が選んだテーマに力を入れて欲しい。しかし、専門の狭い領域だけやっていて人間としての幅が出てこない。自分のやっていない新しい事を追い求めるエネルギーを持ちつづけて欲しい。日野原先生は八十九歳ですが、昨年から芝居の脚本を書くことに挑戦しておられます。

わき目もふらずというの私の性格ではないですから、私は、わき目主義です。しかし、わき目を向けることに對しても貪欲に追い求める。そして、できたら一点については他の人よりも深いといえる部分がある。徹底主義というの必要だとも思います。

引き込まれるようなお話を長時間にわたり有難うございました。先生は平成十三年四月からはハンセン病の国際協力をされている笹川記念保健協力財団の理事長としてお仕事をされると伺っております。どうかご活躍ください。ますますお祈り申し上げます。共々、今後も変わらず本学を御支援くださいますようお願い申し上げます。







二〇〇一年四月十六日午後九時半、国際医療福祉大学の衛星放送が始まりました。「医学医療史」、「社会保障政策論」、「ケースワーク論」、「リハビリテーション概論」といった講義が次々に自宅のテレビに送られます。

自分の部屋でポテトチップスを片手にソファに寝ころがりながら大学を卒業する...というわけには勿論いきませんが、数年前には考えられなかった画期的な教育システムがこの大学で始まったのです。

すでにアメリカなどを中心に衛星放送やインターネットを使った高等教育が急速に拡大していますが、日本でもこうした流れを受け入れようとする動きが、昨年文部省（現在の文部科学省）が新しいメディアを使った講義でも対面式と同じ教育効果があると評価される場合には、単位の上限を設けながらも正式な単位として認めるという方針を打ち出しました。これまでも通信制大学における授業については「印刷教材等による授業」、「放送授業」、「メディアを利用して行う授業」は可能でしたが、今回注目すべきは、必ずしも同時性・双方向性が確保されていなくても、正式な授業として認めるという、各大学にその教育方法の幅を広く認める姿勢をとった点にあります。本学ではこうした流れをいち早くくんで、衛星放送による授業という新しい試みを組み合わせた教育システムを始動させたのです。

さて、ここで実際放送による授業がどのように進行しているのか覗いてみましょう。例えば、月曜と木曜の夜九時半から放送される原田尚先生の「医学医療史」では、今日の医学・医療はどのようにして形成されてきたのか、



▲ 理学療法学科長 丸山先生も出演しています

その時代を伺い知ることのできる非常に美しい版画や絵画、スライド資料などを講義にふんだんに取り入れて見せてくれます。その後の時間帯に放送される和田勝先生の「社会保障政策論」では、毎週収録時までに集められる限りの最新の新聞や政策発表に関する資料などが用意され、一番新鮮な情報で講義されていきます。火曜、金曜の大島實先生の「ケースワーク論」では、実際のケースワークの様子を映像で紹介しながら講義が進められています。また夏に放送される、疾病論の松川公一先生からは次のようなコメントを戴きました。



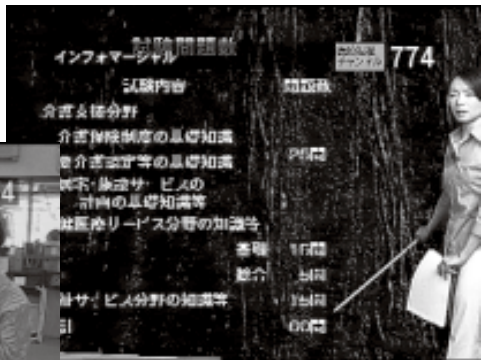
「疾病論D麻酔科学」を担当した 松川公一助教授の話

メリットは、学生が臨床の現場を視覚で体験できることです。私は、麻酔の担当で手術室が仕事場ですが、ほとんどの学生は、手術室に入った経験というのはないのではないのでしょうか。その現場を映像で見られるという経験は、とても貴重で、そのことによって、より一層講義の内容を理解できると思います。映像での通常の教室の講義よりは、伝える情報量としては、かなり多くなると思います。デメリットとしては、教える側にとつてですが、教室でのリアルタイムでの学生の反応が得られないことです。これは、ちよつと寂しいです。ただ、今後パソコンの環境が整備されて、学生と教員と直接メールで質問などのやりとりができるようになれば、いいと思います。

あと、教室講義のなかではできない、よもやま話のような、直接講義とは関係ないかもしれない周辺の話がしにくい、無駄な話はできない、と感じました。フォーマルな話だけ、というの、教えるほうも、聞くほうもつらいかもしれませんので、放送の中でもこれからしていければよいですね。

スカイパーフェクトTV!には各種専門チャンネルが現在三〇〇近くあり、本学が利用している「医療福祉チャンネル774」もそのひとつで、その名の通り医療と福祉に関する専門チャンネルです。「医療福祉チャンネル774」では本学の学部に関連する医療福祉専門

職のためのさまざまな講座番組や情報番組を放送しているので、合わせて視聴できるのが利点といえます。特にリハビリテーションの分野においては、各協会と提携の上、協会の生涯教育プログラムに対応した講座番組を定期的に放送しており、例えば五月、六月に行われる日本理学療法士協会、日本作業療法士協会の学会講演のいくつかは、開催後すぐに「医療福祉チャンネル774」で見ることが出来ます。また普段なかなか出会う機会が少ないであろう各分野の第一人者やその発展に貢献してきた先輩、現場で実際に働いている人、国際的に活躍している人の話なども、モニターを通してではあるが、顔の表情、生の声とともに聞くことも可能なのです。

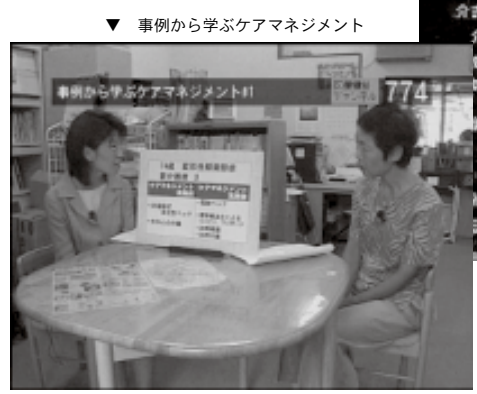


▲ 様々な番組を紹介するインフォマーシャル



◀ ケアマネジャー 受験対策講座

▶ ホームヘルパー フォローアップ講座



▼ 事例から学ぶケアマネジメント

# 衛星放送による授業の開始

教務委員長 杉原素子



本学では平成十三年度の前期から一部の科目で、衛星放送による授業を開始する。この時期に衛星放送による授業を開始することになった背景にはいくつかの理由が挙げられる。まず、昨今大学教育における遠隔教育や学校間の単位互換制度の推進、さまざま教育題材を活用した授業の展開などが文部科学省から具体的に示され、本学においても教育方法の多様化が求められていること、また本学の七学科の教育課程が国家資格を目指すものであるため、指定科目が各課程に多くあり、そのことから総合科目や学部共通科目に選択の幅が狭まる傾向があること、科目によっては三〇〇人を超える多人数の学生の履修があるなどを衛星放送授業の導入の理由としてあげることができよう。

本学の衛星放送授業は、スカイパーフェクトV!の「医療福祉チャンネル774」の一部時間帯を利用して実施される。時間帯は学生の希望を取り入れ、二〇時～二二時であり、講義一回の放送時間は四十五分である(ただし一部の科目は九十分が一回)。これらの衛星放送授業の講義内容は、すべて収録され、大学構内においていつでも視聴できるようにする。このことから特定の講義を視聴できなかった学生、テレビそのものを所有していない学生は、学内での視聴が可能である。また昨年後期から、今年度前期の授業に間に合うよう、在学生一人一人の居住場所に、衛星放送受信に必要な通信機器の設置が進められてきている。また、新入生に対しては現在、概ね受信設備の取り付けが完了しつつある。

学生たちは、大学時間帯の授業だけでなく、「医療福祉チャンネル774」の番組はすべて無料で視聴できることから、医療福祉に関連する他の知識・技術を広く学ぶことができることも、いくつかの専門職の生涯教育プログラムも視聴可能である。

平成十三年度前期・後期から受講できる衛星放送授業の具体的な科目はすでに新学期オリエンテーションで紹介済みであるが、今後学生の意

見を反映させながら検討を重ね、なお一層の整備・充実を目指していかねばならないと考えている。



放送授業には当然のことながらメリット、デメリットがあり、いかにそのメリットを生かして活用していくかが重要なわけですが、本学の放送授業がひとつのケーススタディとして教育分野、放送分野関係者の注目を集めているのは、本学の衛星放送授業が一般視聴者も利用しているCSデジタル衛星放送スカイパーフェクトV!のチャンネルを利用していている点にあります。これは他大学でもまだ例がないことです。教室における対面学習や、臨床実習・施設研修などの学習に加え、こうしたメディアを利用していることによって学ぶ機会・方法が増えたことは、やはり大変重要なことだと思われまます。今まで履修しにくとも他の講義と時間が重なっていたり、人数制限のある教室の都合により履修登録できなかったりした学生にとっても履修が可能になるからです。

また最近では生涯学習への関心が急速に高まり、社会人でも忙しい合間をぬって、大学院やビジネススクール、通信講座などでより高い専門性を身につけ、スキルアップを図ろうとしている人が増えていますが、本学の衛星放送授業がそういった人へも有用な手段となりうるでしょう。時間や距離を超えて、様々な可能性が広がることでしょう。



▲ よくわかる医療・福祉講座

## ンコンゲさんインタビュー

本学とすっかりおなじみになったJICAケニアプロジェクトで来学されているンコンゲさんにお話していただきました。(三月七日)



ンコンゲさん、こんにちは。この冬は特別の寒さで、ケニアからいらして大変だったと思いますが、どのような目的で、どのくらい滞在なさるのでしょいか？

ンコンゲ：これは五ヶ月の研修プログラムでこの大学に来る前に、金沢医科大学に八週間、東京の聖ルカ病院等にも行って来ました。この大学では「健康教材の開発、指導メディアデータベースについて、情報教育センターで研修しています。三月二十三日まで主に細井先生にコンピュータを習っています。

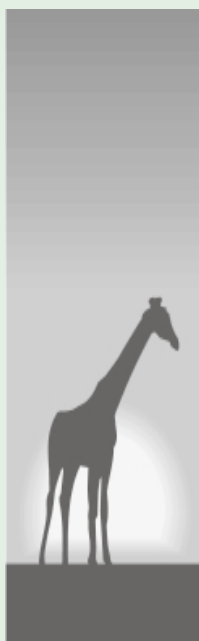
：KMTTC(ケニア医療訓練カレッジ)ではどんなお仕事をなさっていますか？

ンコンゲ：KMTTCには十四の学部があります。看護、理学、作業等のほかに薬学、歯科衛生などもあり、教員は六百名、地方に二十三のトレーニングセンターのある大きな組織です。私は医学教育学部の学部長です。この学部はすべての学部をサポートする役目があります。



：ちょうど春休みに入ってしまったのですが、この学生に会う機会がありませんか？

ンコンゲ：はい、ほとんど毎日学生のグループと会い、日本のことを聞いたり、こちらはケニアの文化について話したりします。とても素晴らしい学生さんたちです。



ンコンゲさんのご家族は？

ンコンゲ：銀行をリタイアして農業をしている夫と、もう大人になった子供が三人全部一緒に暮らしています。娘はオーストラリアでMBAを取りました。息子の一人は商業で経理をやっています。

：日本の食べ物はいかがですか？もう慣れましたか？お国のウガリを思い出しますか？

ンコンゲ：ご飯、味噌汁大好きです。日本のものは大体なんでもいただきますが、イロコシ、グリーンピース、それにほうれん草のような緑葉野菜を色々全部一緒に煮て、こねてお餅のようにします。ウガリと同じようにシチューと一緒に食べるのです。



：お忙しい研修プログラムの中、お時間をいただきありがとうございます。まだまだ寒いですが風邪など引かぬようにお大事になさってください。(宮尾洋子)



# お知らせ

- 10/4（水） 福島県立清稜高等学校PTA
- 10/11（水） 栃木県立上三川高等学校PTA
- 10/25（水） 栃木県高齢者総合センター
- 11/6（月） クワニキ病院（ハワイ）
- 11/7（火） クイーンエリザベスセンター（オーストラリア）
- 11/8（水） シティライフ研究所
- 11/16（水） 栃木県立佐野女子高等学校PTA
- 11/22（水） 栃木県総合教育センター
- 12/3（日） フジテレビ黒岩祐治キャスター
- 12/6（水） 三広メディカル
- 12/21（木） 日本リハビリテーション学会
- 12/22（金） 東京福祉大学
- 1/16（火） NTT西日本
- 1/18（木） NTT西日本
- 2/28（水） 日本医科大学千葉看護専門学校

## 図書館だより

看護学科 第3期卒業生による寄贈図書  
後輩の皆さんに役立ててほしいということで、「公衆衛生看護学大系」など11冊を購入してご寄贈いただきました。後輩への温かい思いやりに感謝いたします。「第3期看護学科卒業生寄贈」のシールを添付して、看護学の書架に配架してあります。どうぞご利用下さい。

（飯沼一浩）



## 入試事務室

平成13年度入試の結果が、下記の通り集計できましたのでご報告します。

学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
看護学科	970	916	230	129
理学療法学科	1913	1848	153	103
作業療法学科	780	743	147	103
言語聴覚障害学科	483	460	141	103
放射線・情報科学	499	486	203	129
医療経営管理学科	285	273	233	127
医療福祉学科	399	380	199	128

## 学生課

- 毎回のことですが、教務課（管理棟）と学生課（L棟）は業務を別に行っています。相談内容をよく考えて、場違いの窓口へ行くことのないようにしてください。また様々な掲示を学生課として出していますので、大学へ来たらず初めに必ず掲示板を注意して見るようにしてください。
- 学生相談室について  
学生相談室がL棟1階にあります。ここでは学生の皆さんの様々な悩み・相談に応じています。新学期になっていろいろな悩みが出てくる頃だと思いますが、困った時には学生相談室を利用してください。

## 同窓会「マロニエ会」

同窓会「マロニエ会」では、第三期生の学科代表候補生を交えて平成十三年度の運営について話し合いを進めていまして、今年度は、医療経営管理学科・医療福祉学科の新しい学科の発足を促すべく、卒業後の学舎を共にしたい仲間と繋がりをもてれば良いと思っております。また、平成十三年六月十六日（土）もしくは十七日（日）には、同窓会第三回総会を開催する予定です。ぜひ、皆様に仲間と会える機会ですので、ぜひ、皆様ご参加ください。詳細については、後日ご連絡致します。

同窓会「マロニエ会」理事 星野友美  
（第一期看護学科卒業生）

・お詫び・  
一月末に送付させていただきました、平成十三年度教育後援会入会案内書類の中で一部教育後援会事務局の電話番号に誤りがありました。左記のとおり訂正致します。  
0287-24-3003  
0287-24-3140

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1  
国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」事務局  
TEL 0287-24-3003 / FAX 0287-24-3140  
e-mail office@maronie.uhw.ac.jp  
http://www.maronie.uhw.ac.jp/

## 健康日本21

### 推進全国連絡協議会結成

### 大谷学長が発起人代表

国は第3次国民健康づくり運動として「健康日本21」を推進しています。民間の100以上の健康づくりの全国関係諸団体がこれに協力して連携し、連絡協議の場として「健康日本21推進全国連絡協議会」を設立することになり、3月14日第1回総会が東京虎ノ門パストラルで開催されました。大谷学長は発起人代表として当日呼びかけの挨拶を行ったのです。

因みに大谷学長は1978年第1次国民健康づくり運動の策定者であり、また公衆衛生審議会会長として成人病を生活習慣病に呼称変更の提案者として有名です。

## 第十四回東アジア医学生会議 (EAMSC) に参加して

二月二十三日から二十六日まで「死をテーマとして東京で開催され、六つの国・地域（オーストラリア、韓国、タイ、台湾、ニュージーランド、香港）からの代表を迎え、総計百余名の学生が参加し、福祉大からも僕を含めて十二名の学生が参加しました。会議では日本独自の死のあり方や現状、アジアの国や地域の死に対する考えなどについて発表を聞き、神社、寺院、多摩全生園などで死を身近に考えられる場所を見学し、その上でテーマを専門的に分け、ディスカッションを行いました。日本を含めたアジアの国や地域の医学生と交流することは、将来職種連携を共に進めることにつながると感じました。



（理學二年 玉井洋平）  
国際化の第一歩となり、今後の交流を続けたいと思います。





# 平成十二年度秋の叙勲 勲一等瑞宝章受章に際しまして

中嶋 宏



この度勲一等瑞宝章の栄に浴しましことは私にとつてこの上ない光栄でございます。国連を含む国際機関の長としてこの賞を頂くことは初めてのことです。これも偏に皆様のお力添えと温かなご支援・ご厚情の賜と深く感謝しております。

この受章は、ご支持くださいました日本の方々、共に働いたWHOの職員とともに喜びを分かち合いたいと思っております。

WHO在職中は、ポリオ撲滅活動をはじめ国際保健の向上に努めて参りました。国際基準調整、狂牛病の問題、ダイオキシン、放射線の基準、また感染症対策においてはハンセン氏病の排除等について取り組んで参りました。任期中に完全な目標には達成しませんでした。これは大きな進歩を遂げたと思っております。また医療福祉の人材作りとして、日本では故渡辺美智雄氏が率先して取り組んだ国際医療協力におけるコメディカルの養成についてもご協力させていただいたことは、大変光栄なことでございます。WHOでの二十五年を終えまして二年前に国際医療福祉大学に参りました。

国際医療福祉大学の「国際」とは、今後医療の地球化に伴い、コメディカル分野において地球レベルで活躍されなければならない、との考えからです。したがって、学生の皆様は将来を日本のみの視野ではなく、国際的な場でも活躍するという心構えで勉学に励んで頂きたいです。



WHOにて(ガリ前総長を中心に)



瑞宝章受賞後奥様と



ローマ法王と



銃砲弾の飛び交うサラエボにて



キューバ・カストロ議長と



アフガニスタンへ医薬品緊急輸送

# 部会・委員会報告

## 紀要委員会

第九回紀要委員会を十一月二十日(水)、第十回を一月十六日(火)、第十一回を二月二十日(火)、第十二回は三月二十七日(火)に開催しました。今回は最近の論文原稿について記述します。学会誌や大学院などの論文を原稿の段階で審査する機会があります。著者は理系なのに、図やグラフの書き方、数値の表現が無軌道になっていきます。おそらく学会発表のスライドをそのまま持ち込んだものであり、文章も表現力不足です。共著者の中に指導者がいてもそうです。

内容以前の問題です。基本的に何か欠落している社会的問題を含んでいるように思われます。(野原功全)

## 国際部・国際交流委員会

- 一 国際保健協力フィールドワークフェローシップ
  - ・十二年度参加の竹田千鶴子(福祉四年)さんの「海外研修報告書」を関係者に配布しました。
  - ・十三年八月開催の国内・海外研修参加者を四月始めに募集します。ふるって応募して下さい。
- 二 「海外保健福祉事情」科目のオリエンテーションを四月十日(火)三時からE-101教室で行います。
- 三 JICAケニア国医療技術教育強化プロジェクト
  - ・長谷川豊国際部長が、チーフアドバイザーとして三月一日赴任しました。前任者の山崎統四郎教授は三月十五日帰国しました。
  - ・研修員 Ms. Nkonge (K M T C 医学教育学部学部長) は三月二十三日まで、Mr. Wamawa (K M T C 保健情報学部講師) は三月二十九日まで研修を行いました。(田中美子)

## 教務委員会

三十五号における杉原委員長の報告にもありましたが、いよいよ衛星放送授業が始まります。昨年十月以来、教務委員会では科目と講師の選択や放送時間帯の決定など実施

の細目を検討してきましたが、今年度前期は医学ノ医療史、社会保障政策論、総合講義、ケースワーク論、リハビリテーション概論、救急医学の六科目が放送されることになりました。今回の試みは情報化という時代の流れに沿うものといえます。そして、学生の科目選択の幅が広がることが、社会的により広範な人々が本校の教育を受けられることが期待されています。しかし、この授業形態においては、旧来の教室における授業以上に、受講者の学習意欲や自発性が必要と考えられます。また、このような教育方法の有効性について組織的で継続的な検証が成されるべきでしょう。おりのテーマで開講されるべきです。学生、教員を問わず多くの方々が、教育を含めた情報化の意義や功罪について深く考えられんことを期待します。

## ボランティア委員会

新一年生にボランティア募集  
大学内に設置された二つの福祉施設で、食事介助、洗濯たたみなどのボランティアに参加する学生は、昨年九月に九十名でスタートして、現在は一〇〇名まで増加しました。学生からは、活動は大変やりがいがあり、楽しいと好評です。

委員会では、施設からの要請に添えて十三年度新入生に四月のオリエンテーションの機会に七学科共通に呼びかけて、さらに参加者を増やすことを申し合わせました。

また二月二十日、大田原ボランティアの集いの十三年度開催についての打ち合わせが開催され、本学から本委員会とあじさいの代表が参加しました。

## 就職委員会

就職一〇〇%を達成  
三月二十八日、就職委員会を開催しました。各学科から就職状況の報告があり、看護理学部は一〇〇%、作業、言語、放射線の各学科は八〇、九〇%の達成率であることが報告されました。

本年、はじめて卒業生をだす医療福祉学部は、医療経営管理学科が教員の熱心な職場開拓で秋口には九二・五%を実現しました。医療福祉学科は、求人の出足が遅く三月始めてまだ七〇%と心配されましたが、卒業式の時点では八〇%となり最終には九〇%程度になるものと思われれます。



# 学科・センター便り

## 看護学科

看護学科の卒業式はとて熱くそしてクールでした。



看護学科の卒業式は、三期生達(一三二名)の喜びの熱気が溢れて、今年の寒く厳しかった冬が去り、百花斉放の春の到来を予感させる華やかな会となりました。荒井学科長からの「自己組織力」への啓発を提案された言葉に始まって、卒業生代表・瀬戸僚馬君の「生活者として四年間を生きた自信」についての力強い表明があり、また最後に「二十一世紀を生きて卒業生達に何が必要か」と問いかける齋藤先生の言葉を一三二人の心に残して、短いながらも感動の余韻の残る伝達式がしめくくられました。(藤原聡子)

## 理学療法学科

PT学科らしい、笑いあり涙ありの盛大な出発式で卒業生を送り出すと、休む間もなく新入生を迎える時期となりました。元気で奔放にも見えた卒業生とどこか控えめな新入生とのコントラストについて微笑んでしまったのは私だけでしょうか? 一方四年生は、集大成ともいえる総合臨床実習に臨み、奮闘の事と思います。レポートの行間には、技術や知識のみでなく「人生の価値って、患者様が良くある事(Well Being)って何だろう?」等と、ほんの少し哲学めいた内容も、そつと忍ばせてみては如何でしょうか。(中口和彦)

## 作業療法学科

新年度スタート  
入学・進級おめでとございます。さて、今年度はどの様に過ごされる予定ですか? 何にエネルギーを注がれる予定でしょうか?  
当学科でも新しい教員をお迎えし、新たなスタートを切りました。気持ちを新たに、授業や臨床実習に臨む予定であります。(久保田清子)

## 放射線・情報科学科

新学科学長  
本年四月より、野原功全学科学長のとを受けて学科長を拝命することになりました。  
本学の基本理念にもあるように、すべての人がお互いの人格を尊重し、また理事長の新年のご挨拶にもありましたように、「愛情を持って学生の教育にあたる」ことを基本姿勢として

学科の運営にあたりたいと思います。とくに、放射線・情報科学科の名に相応しい情報に強い診療放射線技師の育成を目指し、全国で活躍される卒業生の方々が本学科を卒業してよかったですと思える学科にしたいと念願しております。

もより微力ではありますが、皆様のご支援を得て学科運営に全力を尽くすつもりでありますので、ご協力ご支援をお願いいたします。(飯沼一浩)

## 言語聴覚障害学科

### 新年度を迎えて

二〇〇一年三月十六日、本学科三期生九十九名が無事卒業の日を迎えました。同日二十五日に国家試験を控え緊張感を伴いながらも、一人一人が晴れやかに伊藤学科長より証書を受け取りました。国家試験受験者にとり、四月末の発表が終わったときが本当の卒業なのかも知れません。二期生を送り出し、年々増えていく卒業生に感慨と頼もしさを感じつつ、また新年度を迎えます。在学生も教員も新たな気持ちで目標を再確認し、実り多き一年にしましょう。(菅野倫子)

## 医療経営管理学科

### 飛躍の年

医療経営管理学科も創設以来四年が経過し、この三月にはじめて卒業生を出しました。ほとんどすべての人が就職や進学もきまり、これから卒業生が社会で活躍をはじめます。病院や地方自治体、企業などその活躍は多方面にわたっています。

そうした卒業生を育ててくださった紀伊國敵三学科長が、大変残念ですが三月で退職されることになりました。皆で心から御礼申し上げます。新学科学長は、今この原稿を書いている私がつとめることになりました。どうぞ、よろしく。

新年度からは、学部教育は新しい教員を多く迎えてカリキュラムが大きく変わります。卒業まで「医療経営」、「福祉経営」、「診療情報・医療管理」、「医療情報システム」の四つのコースのどれかをとって何らかの資格をとれるようになりました。詳しいことは、また紹介する機会があると思いますが、今までになかった「診療録管理」や「情報システム」なども学んで、その専門家になることも可能です。

また、医療福祉学科と一緒に「医療福祉経営専攻」という名称の大学院修士課程が開設されます。この大学院には仕事をもっている人でも入るようになり、東京や九州キャンパスにいなながら遠隔教育で授業が受けられるなど、色々工夫が

されています。新年度は医療経営管理学科の飛躍の年になることでしょう。(開原成允)

## 医療福祉学科

### 五年目の春

三月には、医療福祉学科初めての卒業生・第一期生たちが、期待と不安に包まれて大学を巣立っていきました。そして六人の先生方が学科を離れました。

そして四月、新しい出会いの春です。一年生の皆さん、「入学おめでとございます。緊張と不安でいっぱいではないでしょうか、友達をたくさん作って・・・恋人も見つけて、楽しい那須野が原の大学生活を過ごしてください!!」

二年生は、各論的・専門的な科目がグッと増えます。関心をもって勉強勉強。三年生は、夏休みによいよ実習です。体調に気をつけて準備万端に! 四年生は、実習、就職活動、卒業論文、国試の受験、盛りだくさん、飛躍の一年になります。頑張って乗り切ってください! 準備は早いほうがいいですよ。四月から新しい先生が着任されました。高橋紘一先生、浅香勉先生と山口光治先生です。本年度もよろしく願っています。(本多勇)

## 大学院便り

三月に二十四名の保健医学修士が誕生し、博士課程へ進む八名を除いた、十六名の若者が二十一世紀の社会にそれぞれ飛翔していききました。十年後の彼等が楽しみです。

四月から、修士博士課程を目指す七十七名の院生を迎える事が出来ました。その中には専門職として実社会で豊富な経験を持った院生も少なくありません。特に本学外から入学された方々は、未知の情報をわれわれにもたらしてくれるものと期待しています。また、遠隔授業も始まり、東京、九州、大田原の各地で院生が受講可能となりました。

三、四月は別れの寂しさ、新しい出会いの喜びが交錯する時期です。お世話になりました教職員の先生皆様のご健勝を心からお祈りいたします。(初山泰弘)

## 語学教育センター

一年生の皆さん、入学おめでとございます。英語の好き・嫌いにかかわらず、皆さんには、このグローバルな時代に対応できる英語力を身につけて欲しいと願っています。伝達的手段、専門を深めるための手段として、また、異文化理解・教養を増すために、楽しみかつ一寸苦しみながら、実践に役立つ語学習

得をめざし、共に努力いたしましょう。新卒業生の長谷川真人君(理学)はニューヨーク大学大学院で「リクリエーション療法」を学ぶことになりました。留学生第一号です。「海外保健福祉事情」科目の活動、自主的活動であるアジア医学生会議やタイでのNIGO活動への参加など、多くの学生が国際体験を積んでいることは嬉しいことです。国際的視野を持つ学生であふれるキャンパスとなり、英語やその他の言語が飛び交う文字どおり国際大学になるよう、頑張ります。(田中美子)

## 基礎医学研究センター

### 三賢人を送る

基礎医学研究センターの三人の教官がこの三月末で退職されました。

いずれの方も、開学以来の教授で、我々基礎医学研究センターの教員は全員大変お世話になりました。この御三人から教えられたことは沢山ありますが、中でも、御三人は年をとって流動性知識が落ちても落ちないばかりかかえつつ、どんどん賢く成って行くんじゃないかかと思われたことです。年をとった人を賢者というのは本当でした。いつも新しいものに興味を持ち、学習し、大学内で変化する環境に随時適応する術を持っておられました。小生などは流動性知識が落ちていって、それを補完する作用に欠けたりそうして不安の毎日です。なんとか、生涯学習のお陰で問題にならずにすんでいるようです。然し、不安があるというのは、また感受性があり、感情が鈍っていないからだと安心している面もあります。退職された三人の先生方、老年学では七十四歳まではyoung and oldといって、まだまだ色々なオプションを選択できる時期でもありますが、これからも、新しいライフスタイルをお持ちになつて活躍ください。(嶋田裕之)

## 健康管理センター

平成十一年度本学健康管理白費総ページ数一〇一(一)が出来上がり、学内各部署および所轄省庁に配布致しました。定期検診の学生受診率は九四・八%と比較的良好でした。教職員は七五・四%と低かったため、十三年度の向上を期待しています。結果は近年の日本国民の全体的な傾向を反映して、肥満・高脂血症などの生活習慣病予備軍が目立ちました。食事の内容が偏らないように気をつけると共に、自動車通学・通勤による運動不足を補いましょう。外来診療では冬季は感冒(夏季は急性胃腸炎)が目立ちました。自己管理を徹底しましょう。(谷禮夫)



## 教員紹介

### 坂口 桃子 (サカグチ モモコ)

- (1) 看護学科、助教授
- (2) 1950年
- (3) 和歌山大学大学院、経済学研究科、経営学専攻
- (4) 看護管理学・急性期看護学
- (5) 和歌山県立医科大学看護短期大学
- (6) 看護職のキャリア・ディベロップメントに関する実証的研究
- (7) 看護方法論2、看護方法論3、看護過程3 - b、看護管理学概論、臨床看護実習2
- (8) そつじ、せんたく、料理



### 渡部 肇 (ワタノベ ハジメ)

- (1) 臨床医学研究センター・助教授 (国際医療福祉大学クリニック)
- (2) 1955.10.22
- (3) 弘前大学医学部、同大学院博士課程
- (4) 内科学 (内分泌・代謝病学) 主な研究領域は神経内分泌学ですが、臨床では甲状腺疾患と糖尿病が中心です。
- (5) 弘前大学医学部第三内科
- (6) Watanobe H et al.: Stimulation by peptide histidine methionine (PHM) of adrenocorticotropin secretion in patients with Cushing's

disease: A comparison with the effect of vasoactive intestinal peptide (VIP) and a study on the effect of combined administration of corticotropin-releasing hormone with PHM or VIP. J Clin Endocrinol Metab 78:1372-1377, 1994.  
Watanobe H et al.: The melanocortin 4 receptor mediates leptin stimulation of luteinizing hormone and prolactin surges in steroid-primed ovariectomized rats. Biochem Biophys Res Commun 257:860-864, 1999.

- (7) 内科学 (言語聴覚障害学) 医学概論 (放射線・情報科学科)
- (8) 外国語 (実用英語技能検定1級)

- (1) 所属・職位 (2) 生年 (3) 出身校 (4) 専門分野 (5) 直前の勤め先
- (6) 主要著書又は論文 (7) 本校における担当科目 (8) 趣味



### 私が感銘を受けた本 (第10回)

書名: 私の個人主義  
著者: 夏目漱石  
出版社: 岩波書店  
紹介者: 情報教育センター 平林 誠

漱石が自分の講演を加筆したものである。この講演において漱石は「自己本位」の生き方をすすめている。自己本位を字句の通り解釈すると利己主義のように思われるが、漱石は「他人の思想の借用ではない、自分自身の考え方」という意味に用いている。漱石でさえ「自己本位に到達するには、多くの年月を要した」というほど難しいことではあるが、他人の考えをそのまま無批判に受容することなく、自分自身の考えとして再構築することは、今後の世の中においてますます重要になると思われる。

図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。ご愛読下さい。(図書館長)



### 私の研究ノート

「心筋症患者が一人でも多く少しでも早く病气から解放される日を願って」  
放射線・情報科学科 新井 正一

私は家族性肥大型心筋症の研究をここ10年くらい続けています。

心筋症という病气は若年で発症した場合、そのうち年間2~6%の人で突然死を起こし、50~60%は家族内で発症する、つまり遺伝子を介して発症する疾患です。また現在のところ治療法は心臓移植を行うのが一般的とされる、かなり重篤な心臓疾患です。遺伝子を介しての発症のため、その原因遺伝子の発見が重要とされています。

みなさんは中学や高校の生物の授業で、「細胞の中には核があってその中には染色体が存在し、中にDNAが入っている」ということを教わったと思いますが、心筋症の場合、心臓の筋肉に関連している遺伝子に変異(塩基配列が正常な人と違うこと)が生じることによりこの病气が発症することが突き止められてきています。実はそのほかにエネルギー代謝系を司っているミトコンドリアにもDNAがあり、私はこちらのDNAにも心筋症発症の原因があるのではないかと考え、その研究に着手しました。

ミトコンドリアは、細胞1個の中に数百~数千個も入っています。さらにこのミトコンドリアの中にはそれぞれ数個のDNAが入っています。つまりわずか細胞1個の中に数百から数千のミトコンドリアDNAが入っていることとなります。実はこの核DNAとミトコンドリアDNAは互いに助け合い、協力し合って細胞の中で「共に生きる(社会)」を築き上げているのです。これを「共生」といいます。仮に細胞から核DNAを抜いてしまうと、その細胞は死んでしまいます。同様にミトコンドリアDNAを抜いてしまってもその細胞は死んでしまうのです。しかもこのミトコンドリアDNAは母系遺伝、つまり母親からしかDNAは受け継がれません。父親からのミトコンドリアDNAは受精と同時に消えてしまうのです。こんなドラマティックなDNAに魅せられて、私は研究にのめり込みました。そしてついに一昨年、核DNAとミトコンドリアDNAの両方に変異を持った肥大型心筋症家系を世界で初めて見つけ、その報告をAmerican Heart Association(AHA)(循環器を専門としている先生はよくご存じの有名な学会)で発表してきました。そしていつの間にか「母系の心筋症家系だから是非ミトコンドリアDNAを調べてほしい」などという依頼が全国から舞い込むようになり、ミトコンドリアDNAの解析をたくさん受ける羽目になってしまいました。

「私がこの研究を進めることにより心筋症患者が一人でも多く少しでも早くこの病气から解放されることを願って日夜研究を続けています。」



### リレーエッセイ 理学療法学科 齋藤昭彦

最近、都市部の街角でIUHWのシンボルマークをよく見かけるようになりました。最初は、IUHWの関係者が多くなったことに感心していたのですが、しばらくしてそのマークは、実はかなりの売り上げを伸ばして注目されている某コーヒーショップチェーンのシンボルマークであることを知りました。このコーヒーショップチェーンの成功の秘訣は、従来のファーストフード店で行われているようなマニュアル的なサービスではなく、個々の利用者に対応したサービスを心がけていることにあると言われています。「マニュアル」と言われる小冊子を用いることにより、一定水準のサービスを提供することが可能ですが、一歩進んで個々の患者さんに対応したサービスを提供するためには限界があります。ところで、私の専門は理学療法の中の「マニュアルセラピー manual therapy」という分野です。この場合の「マニュアル」は、「徒手的な」という形容詞的であり、「徒手的な(手でする)治療」ということとなります。現代のマニュアルセラピーが目指すものは、「マニュアル」から脱却したマニュアルセラピーであります。

次回執筆者: 橋本光康 (放射線・情報科学科)

### IUHWクイズ - 第24弾 - 当選者発表

(前号では第23弾と記してありましたが、第24弾の間違いです。失礼致しました。)

多数のご応募ありがとうございました。今回は、プレゼントが3倍ということで、応募数も通常の3倍以上ありました。その中で、見事栄冠を手にしたのは、小沢一恵さん(理学)です。おめでとうございます。学生証持参の上、L棟学生課までお越し下さい。

解答: 27 × 32



